

伊丹福音ルーテル教会 宗教改革主日礼拝のしおり

2022年10月30日

前奏

招きのことば：エレミヤ書3章31-34節

見よ、わたしがイスラエルの家、ユダの家と新しい契約を結ぶ日が来る、と主は言われる。この契約は、かつてわたしが彼らの先祖の手を取ってエジプトの地から導き出したときに結んだものではない。わたしが彼らの主人であったにもかかわらず、彼らはこの契約を破った、と主は言われる。しかし、来るべき日に、わたしがイスラエルの家と結ぶ契約はこれである、と主は言われる。すなわち、わたしの律法を彼らの胸の中に授け、彼らの心にそれを記す。わたしは彼らの神となり、彼らはわたしの民となる。そのとき、人々は隣人どうし、兄弟どうし、「主を知れ」と言って教えることはない。彼らはすべて、小さい者も大きい者もわたしを知るからである、と主は言われる。わたしは彼らの悪を赦し、再び彼らの罪に心を留めることはない。

罪の悔い改めと赦しのことば

会衆： 私たちは生まれつき、自分中心、わがままで、心の中に本当の愛のかけらもありません。思いとことばと行いで、まことの神を軽んじて、となりびとにも愛のない、神の御前に罪人です。神様、ほんとうにごめんなさい。

私たちは祈ります。私たちを救うため あなたがお与えくださった イエス・キリストによって、どうかあわれんでください。アーメン。（短い黙祷を持ちましょう）

牧師： 何でもおできになる神様は、あなたのすべての罪を赦すために、そのひとり子、イエス・キリストを十字架の上で死に渡してくださいました。ですから神様の御言葉をとりつぐ務めに任じられた牧師として、今、あなたがたに宣言します。父と、御子と、聖霊のお名前によって、あなたの罪は赦されました。安心して行きなさい。**アーメン。**

み言葉の部

使徒信条

われは、天地のつくり主、父なる全能の神を信ず。

われは、そのひとり子、われらの主、イエス・キリストを信ず。

主は聖霊によりて宿り、おとめマリヤより生まれ、ポンテオ・ピラトのもとに苦しみを受け、十字架につけられ、死して葬られ、

陰府(よみ)にくだり、三日目によみがえり、天にのぼり、父なる全能の神の右に座したまえり。生ける人と死にたる人とを審かんがため、かしこより再びきたりたまわん。

我は聖霊を信ず、また、聖なるキリスト教会、すなわち聖徒の交わり、罪のゆるし、からだのよみがえり、限りなきいのちを信ず。アーメン。

祈り

愛とあわれみに満ちておられる 私たちの父なる神様、心から感謝をいたします。今朝も共に礼拝にあずかり、罪の赦しをいただき、新しいいのちをいただいて 一週間を始めます。

私たちはあなたの憐みによってすべての罪を赦していただき、神の子とされます。あなたは聖書を通してこの真理を明らかにしてくださいました。感謝をいたします。どんなに人の評判がよくななくても、どんなに自分で自分の人生は正しいものではなかったとわかっていても、神様から離れてしまっている私たちの罪を償ってくださる御子イエス・キリストをあなたはお送りくださって、イエス様によってすべての罪を赦して、新しいいのちを与えてくださいます。この真理を土台にし、あなたの溢れる恵みを感謝をして、今週も心新たに生きていきます。主よ、どうぞ導いてください。

新型コロナ・ウィルスの感染拡大を防ぐため、緊張感を保たなければなりません。その中でも全て御手にゆだね安心して、あなたの子どもとして 生き生きと生きる日々をお与えください。この祈りを、私たちの救い主であり 主である イエス・キリストのお名前によってお祈りいたします。 **アーメン**

使徒書朗読：ローマの信徒への手紙3章19-28節

さて、わたしたちが知っているように、すべて律法の言うところは、律法の下にいる人々に向けられています。それは、すべての人の口がふさがれて、全世界が神の裁きに服するようになるためなのです。なぜなら、律法を実行することによっては、だれ一人神の前で義とされないからです。律法によっては、罪の自覚しか生じないのです。ところが今や、律法とは関係なく、しかも律法と預言者によって立証されて、神の義が示されました。すなわち、イエス・キリストを信じることにより、信じる者すべてに与えられる神の義です。そこには何の差別もありません。人は皆、罪を犯して神の栄光を受けられなくなっていますが、ただキリスト・イエスによる贖いの業を通して、神の恵みにより無償で義とされるのです。神はこのキリストを立て、その血によって信じる者のために罪を償う供え物となさいました。それは、今まで人が犯した罪を見逃して、神の義をお示しになるためです。このように神は忍耐してこられたが、今この時に義を示されたのは、御自分が正しい方であることを明らかにし、イエスを信じる者を義となさるためです。では、人の誇りはどこにあるのか。それは取り除かれました。どんな法則によってか。行いの法則によるのか。そうではない。信仰の法則によってです。なぜなら、わたしたちは、人が義とされるのは律法の行いによるのではなく、信仰によると考えるからです。

福音書朗読：ルカによる福音書19章1-10節

イエスはエリコに入り、町をとおられた。そこにザアカイという人がいた。この人は徴税人の頭で、金持ちであった。イエスがどんな人か見ようとしたが、背が低かったので、群衆に遮られて見るができなかった。それで、イエスを見るために、走って先回りし、いちじく桑の木に登った。そこを通り過ぎようとしておられたからである。イエスはその場所に来ると、

上を見上げて言われた。「ザアカイ、急いで降りて来なさい。今日は、ぜひあなたの家に泊まりたい。」ザアカイは急いで降りて来て、喜んでイエスを迎えた。これを見た人たちは皆つぶやいた。「あの人は罪深い男のところに行って宿をとった。」しかし、ザアカイは立ち上がって、主に言った。「主よ、わたしは財産の半分を貧しい人々に施します。また、だれかから何かだまし取っていたら、それを四倍にして返します。」イエスは言われた。「今日、救いがこの家を訪れた。この人もアブラハムの子なのだから。人の子は、失われたものを捜して救うために来たのである。」

讚美歌 534 番

- 1 ほむべきかな 主のみ恵み、今日まで旅路を 守りたまえり
※よろずの民よ、たたえまつれ 「あがない主(ぬし)に み栄えあれ」と
- 2 ほむべきかな 御名によりて 愛くれば物みな よからざるなし ※
- 3 ほむべきかな 主の御名こそ いまわの時も 慰めとなれ ※ **アーメン**

説教：「失われた者を探して救う」

私たちの父なる神様と御子イエス・キリストから、恵みと平安が豊かにありますように祈りつつ、御言葉をとりつぎます。

イエス様は人びとに矛盾したお方と思われました。自分は正しい人だ、と言って人を見下していたファリサイ派の人びとには、うぬぼれてはいけなことを教えて、とても厳しく接しました。しかし罪びとと言われる人びとには優しくし、食事とともにしました。罪びとというまづ外国の人でした。イスラエルの人びとは神様の民とされているけれど、外国の人びとは罪深い人々だということです。さらにイスラエルの人びとの間にも罪びとがいました。目に余る悪いことを行い、多くの人に相手にされなくなっていた人びとです。罪びとの中には、罪びとである外国人の国、つまりローマ帝国の手先になって同胞から税金を取る徴税人と呼ばれる人びとは何重にも罪びとでした。ファリサイ派の人びとは特に徴税人たちを罪びとと呼んで見下していました。ところが意外なことにイエス様は徴税人の人びとと食事を一緒にして親しくされました。なんと十二人のお弟子になるようにと招かれたレビという徴税人もいました。このようなイエス様のお働きを見て、人々はうまく理解できませんでした。価値観が逆転してます。矛盾しているように思えたのです。

バプテスマのヨハネという人がいました。イエス様が来られる前に現れて、罪の赦しを得させる悔い改めのバプテスマを授けました。あなたは悪い人だ、罪びとだと言われてよい気がする人はいません。しかしヨハネは罪の自覚のない人にそのように言いました。人と比べて自分は特に目立つ悪いことをしていない、と思う人に、実は自己中心で自分のことしか考えていない罪びとであることを自覚して、神様の前に悔い改めるように強く勧めました。バプテスマのヨ

ハネは悔い改めのバプテスマをさずけていました。徴税人たちもヨハネのところに来ました。彼らはローマの権威を傘に来て同胞から税金を巻き上げ、また規定を超えた額を取り立てて自分の懐に入れていました。その徴税人たちも、ローマ帝国の力から民を救い出す救い主を待ち望んでいたのです。彼らはヨハネに尋ねました。私たちはこれからどうすればいいですか。するとヨハネは「決まっている以上のお金を人々から取り立てないように」と言いました。

バプテスマのヨハネは私のあとでイエス様が来られます、と紹介しました。そしてイエス様は、徴税人を責めませんでした。むしろ一緒に食事をしました。ファリサイ派の人びとは理解できません。なぜ徴税人や罪びとと一緒に食事までするのですか、なぜ彼らを受け入れて仲間になるのですか、とイエス様に何度も尋ねました。イエス様はきちんとお答えになりました。あるときは病人と医者のとえを用いられました。自分が病気であることに気づいていない人はお医者さんに会いたいと思わないけれど、病気になってしまったと自覚して困っている人はお医者さんが必要だと思うように、イエス様は自分が罪びとであると知っている人々のところに来て、彼らが悔い改めることができるようにしました。イエス様はファリサイ派の人びとにも自分の罪を認めて、悔い改めてイエス様による罪の赦しを受けてほしいと願っておられたのです。

イエス様はエリコという町に入られました。エリコは交通の要所の町で、にぎやかな街でした。イエス様はこのあと十字架にかかるためエルサレムに行かれますが、それはエリコから西へ伸びている道でした。町に着くとうわさを聞きつけて人々が沿道を埋め尽くします。ザアカイも来ていました。ザアカイは徴税人でした。道行く人から通行税を取る仕事を、長い間一生懸命に続けてきたので身分も高くなっていました。ザアカイはイエス様を一目見たかったのです。イエス様は徴税人と一緒に食事をする人だと聞いていたから、自分のことも助けてくれるかもしれない。背が低かったので先に来ていた群衆の後ろからではイエス様が見えません。もし人々に愛されていたら、前に入れてもらえたのかもしれない。けれどもそんなことはないとわかっていたザアカイはどうしてもイエス様を見たいと思ってが周りを見回すと前方にあるいちじく桑の木を見つけました。走って行って木登りをして枝の間からイエス様を見ようとしてしました。

とても意外なことに、イエス様は木の下に差し掛かるとザアカイに語り掛けました。イエス様はあなたにも今日呼びかけておられます。今日、イエス様のお話を聴くためにここにおいでになるあなたにも声をおかけになっています。「ザアカイ、急いで降りてきなさい。今日は、ぜひあなたの家に泊まりたい」とイエス様はザアカイに言いました。ザアカイはイエス様の呼びかけを聞いてすぐ木を降りて、あなたの家に泊まりたいと言ってくださったイエス様を、喜んでおうちに迎えました。イエス様はあなたの心の中にお入りになりたい、とおっしゃっています。

あなたは心にイエス様をお迎えするのははばかられますか。自分のような罪深い者の心にイエス様が来られたら恐ろしいと思われますか。徴税人のザアカイは、イエス様が自分を責めないで、罪を赦してくださる方であることを知っていました。それでイエス様を喜んで迎え入れました。あなたの罪を責めません。あなたを赦します。悔い改めて心にお迎えしましょう。

それでも自分でいいのだろうか、まだイエス様とまともにお話しする用意はできていないかもしれない、とためらっておられますか。ザアカイは自分の名前をよばれています。人違いではないのです。徴税人であることも、人びとから罪びとと呼ばれていたことも、これまでの人生のすべてをご存じの上で、ザアカイ、と呼びかけられています。イエス様は私たちの名前を呼んで、呼びかけてくださっています。かつてイザヤ書43章で神様は民に言われました。「恐れるな、わたしがあなたを罪から買い戻したのだ、わたしはあなたの名前を呼んだ、あなたはわたしのものだ。」人の目を気にしたり、自分の歩みに自信がないと、イエス様をお迎えするにはもう少し自分が変わってからでなければいけないと思って、躊躇します。でも、どのように自分を整えるのですか。イエス様はあなたをご存じなのです。どのくらいになればイエス様をお迎えできるような人になれるのですか。イエス様は今のあなたに呼びかけておられます。よそ見をしないでイエス様の方に向いて、悔い改めてイエス様をお迎えしましょう。

1517年10月31日にドイツ北部のウィッテンベルクの町で大学神学部教授だった修道士のマルティン・ルターが教会の扉に掲げたと言われている有名な「95か条の提題」があります。今日は宗教改革記念日です。短くご紹介します。その第一の箇条には「私たちの主であるイエス・キリストが『悔い改めなさい(マタイ4:17)』と言われたとき、イエス様は私たちひとりひとりが生涯悔い改め続けることを求めておられるのです」と書かれています。宗教改革の運動は、イエス様は私たちが自分の罪を償うことを求めておらず、そのままの私たちが悔い改めて、生涯イエス様の方を向くことが勧められていると明らかになりました。

ザアカイは飛び跳ねるように喜んで、自分の名前を呼んでくださったイエス様をおうちにお迎えしてもてなしました。しかし、町の人々はザアカイのことをいい気なものだ、と思いましたがそれ以上に、イエス様を責める言葉を発しました。「イエス様にはがっかりしたよ、見損なつたよ。こともあろうに罪深いあの男の家に行って宿をとるとはね。」人々はザアカイではなく、イエス様を批判しました。イエス様はあなたの名前を呼んであなたの心に来てくださいます。そして、あなたの全ての責任をになってくださいます。あなたのためなら悪い評判も受けてくださいます。イエス様はそのまま受け止めてあなたのところに来てくださいます。

イエス様はあとで「人の子は失われた者を探し出して救うために来たのです」と言われました。ザアカイは失われていました。失われていた、とは、いるべきところにいなかった、ということです。神様のもとにいたべきなのに、失われたものでした。ザアカイがイエス様との出会いを求めて木にまで登ったのですが、実はザアカイを捜し出したのはエリコの町にこられたイエス様のほうだったのです。ザアカイを責めるためではなく、ザアカイを救うために来られました。私たちが失われていました。迷子になって、お父さんである神様のもとから離れてしまっていました。その私たちが責めるためにではなく、私たちのために死んでよみがえるために来られました。イエス様は私たちを捜し出して、救うために来てくださいました。

イエス様はまたご自分のことを人の子と呼んでいます。「人の子」は旧約聖書で人々を支配する王のような救い主、人びとの罪を指摘して最後の日にお裁きになる預言者のような存在です。けれども「人の子」であるイエス様はルカの福音書9章22節で「人の子は必ず多くの苦しみを受けて、長老、祭司

長、律法学者たちから排斥されて殺され、三日目に復活することになっている」と言われています。イエス様はザアカイの家に泊まった後、エルサレムに向かわれました。そこで人々から排斥されて十字架で殺され、三日目に復活されました。ザアカイの罪を担い、また私たちの罪を担って、罪のないイエス様が死んでくださいました。イエス様は私たちを責めるためではなく、ご自分のいのちと引き換えに私たちの罪を赦してくださいました。。私たちは洗礼によってイエス様とひとつにされて、イエス様の赦しを受け、よみがえられたイエス様のいのちにあずかります。これが福音です。宗教改革者マルティン・ルターは、福音が見えなくなっていた当時の教会に、あらためてこの福音を明らかにしました。イエス様が私たちのために進んでいのちをあたえてくださり、私たちは信仰のみによってその義をいただくのです。

マルティン・ルターはまた、神様に赦された者は自発的に感謝と喜びを新しい心をもって現わしていくことも聖書に記されていると明らかにしました。赦された私たちは復活のいのちにみなぎります。ザアカイの新しい歩みは、単に、決められた以上に取り立てない、ということではありません。はるかに超えています。ザアカイは立ってこいいました。財産の半分を貧しい人に与えます。残りの半分で足りないかもしれませんが、もしだまし取った人がいたらその額の4倍にして返します、と言いました。自分のもてるものすべてを与えて、喜んで生きていきます。あなたは何かを抱え込んで、これだけは自分のもの、と考えていませんか。今週は自分のもてるすべてのものを生かして与えて、家庭で期待されている役割以上を果たしましょう。社会で人々の目を気にすることを超えて、自分のもてるすべてのものを与えていきましょう。一人一人を受け入れ、赦し、ともに幸せをつくっていきましょう。教会でも、自分の持てるすべてをささげ、神様をほめたたえ、イエス様と人々のお役にたっていきましょう。

人の子は、失われたものを捜して救うために来たのである。ルカによる福音書 19章 10節

人知をはるかに超えた神様の平安が、あなたの心と思いをキリスト・イエスにあって守ってください。アーメン

聖餐の部

主の食卓を囲み 讃美歌 21 81番 1節 2節

1. 主の食卓を囲み、いのちのパンをいただき、救いの杯を飲み、主にあって我らはひとつ。

※マラナ・タ、マラナ・タ、主のみ国がきますように。X2

2. 主の十字架を思い 主の復活をたたえ 主のみ国を待ち望み 主にあって我らは生きる。※

主の祈り

天にましますわれらの父よ、願わくはみ名をあがめさせたまえ。みくにを来たらせたまえ。

みこころの天になるごとく地にもなせたまえ。われらの日用の糧を今日も与えたまえ。

われらに罪をおかす者をわれらが赦すごとく、われらの罪をもゆるしたまえ。

われらを試みにあわせず、悪より救い出したまえ。

国と力と栄えとは、限りなくなんじのものなればなり。アーメン。

設定辞

「主イエスは、引き渡される夜、パンを取り、感謝の祈りをささげてそれを裂き、『これは、あなたがたのためのわたしの体である。わたしの記念としてこのように行いなさい』と言われました。**アーメン**

また、食事の後で、杯も同じようにして、『この杯は、わたしの血によって立てられる新しい契約である。飲む度に、わたしの記念としてこのように行いなさい』と言われました。**アーメン**だから、あなたがたは、このパンを食べこの杯を飲むごとに、主が来られるときまで、主の死を告げ知らせるのです。

配餐 讃美歌 205 番、260 番、262 番**赦しの宣言**

主イエス・キリストのまことの体と、まことの血は、あなたをきよめ、あなたを強め、永遠の命に至らせてくださいます。あなたの罪は赦されました。安心していきなさい。**アーメン**

主の食卓を囲み 讃美歌 21 81 番 3 節

3. 主の呼びかけに応え 主の御言葉に従い 愛の息吹に満たされ 主にあつて我らは歩む。 ※

讃美歌 267 番 献金 献金感謝の祈り

- 1 神は わがやぐら わが強き盾 苦しめる時の 近き助けぞ
おのが力 おのが知恵を 頼みとせる 陰府のおさも などおそるべき
- 2 いかにも強くとも いかでか頼まん やがては朽つべき 人の力を
われと共に 戦い給う イエスキミこそ 万軍の主なる あまつおお神
- 3 悪魔世に満ちて よし威(おど)すとも 神のまことこそ わが内にあれ
陰府のおさよ 吼え猛りて 迫りくとも 主の裁きは 汝(な)が上にあり
- 4 暗き力の よし防ぐとも 主のみことばこそ 進みに進め
わがいのちも わが宝も 取らば取りね 神の国は なおわれにあり **アーメン**

頌栄：讃美歌 541 番

父、御子、御霊の おお御神に ときわに たえせず み栄えあれ、み栄えあれ **アーメン**

祝福の言葉

仰ぎこいねがわくは、私たちの主、イエス・キリストの恵み、父なる神の愛、聖霊の親しきお交わりが、御前に集う一同とともに、今日も、この一週間も、いく久しくとこしえまでも、豊かにありますように。**アーメン**

後奏